学校番号	３０１８

令和８年度　総合造形科

教科	総合造形	科目	生活美術	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・木・土・繊維・ガラス・金属などの素材の特性を理解し、既習の基礎造形力を生かしながら身近で日常生活に役立つ作品を制作する。
（金工・陶芸・染織・木工・ガラスなどから選択し、年間を通じて何点かの作品を制作する。）
・金工では、透かし彫りによるチャームのキーホルダーやシルバーリングを制作する。
・陶芸では、ロクロか手びねりの技法で日用雑器を制作し、施釉、焼成までを実習する。
・染織では、型染めによるランチョンマットやフェルト小物の制作を行う。
・ガラスでは、実用性とデザイン性、装飾との関わりを理解し、ステンドグラス技法を用いて作品を制作する。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
・工具等の正しい使い方を身に付け、扱いに慣れることで、その知識を今後の制作活動に生かせるようにする。
・様々な素材に触れることにより素材の特性を掴み、それぞれの素材に合った加工の方法や技術について学ぶ。
【思考力、判断力、表現力等】
・機能性とデザイン性を兼ね備えた作品を想像し表現することができる。
【学びに向かう力、人間性等】
・ものづくりや造形活動の基本的な態度と技術を身に付ける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・素材に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 ・環境に配慮した合理的なものづくりを計画し、学んだ知識・技術を適切に活用している。	・素材やその加工に関する基礎的・基本的な知識と技術をもとに適切に判断し表現する。 ・機能性やコンセプトを考え、潤いのある日常生活を想像し、表現につなげられる。	・工芸作品について関心を持ち、主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動（　陶芸　染織　ガラス　を、選択した場合）

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	陶芸・器作り	・オリエンテーション ・粘土づくり ・作品エスキース ・作品制作 ・施釉 ・焼成	a:①素材の特徴を知り、作品制作について基礎的･基本的な知識を身に付けている。 ②それぞれの素材に適した成型方法を理解し制作することができる。 b:作業工程を理解し、素材の特徴を生かした表現を計画的に進めながら、創造的に表現している。 c:素材そのものや加工技術について関心を持ち、道具を正しく使用して、安全かつ意欲的に取り組もうとしている。	学習状況の観察 作品	学習状況の観察 作品	学習状況の観察 エスキース 下絵
2	染織・型染めのランチョンマット	・オリエンテーション ・アイデアスケッチとエスキース ・型紙に図案を描く ・型彫り ・染色 ・染料の定着 ・水洗	a:①素材の特徴を知り、作品制作について基礎的･基本的な知識を身に付けている。 ②合理的なものづくりを計画し、学んだ知識･技術を適切に活用している。 b:作業工程を理解し、素材の特徴を生かした表現を計画的に進めながら、創造的に表現している。 c:素材そのものや加工技術について関心を持ち、道具を正しく使用して、安全かつ意欲的に取り組もうとしている。	学習状況の観察 作品	学習状況の観察 作品	学習状況の観察 アイデアスケッチ 型紙
3	ガラス・写真立て	・オリエンテーション ・アイデアスケッチ ・材料の切断 ・銅テープ巻き ・はんだ付け ・仕上げ ・完成	a:①素材の特徴を知り、作品制作について基礎的･基本的な知識を身に付けている。 ②合理的なものづくりを計画し、学んだ知識･技術を適切に活用している。 b:作業工程を理解し、素材の特徴を生かした表現を計画的に進めながら、創造的に表現している。 c:素材そのものや加工技術について関心を持ち、道具を正しく使用して、安全かつ意欲的に取り組もうとしている。	学習状況の観察 作品	学習状況の観察 作品	学習状況の観察 アイデアスケッチ

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度